

地域リハビリテーション勉強会2010

実施日：2010年1月9日（第3回）
2010年5月23日（第4回）
2010年8月22日（第5回）
世話人：作業療法学専攻 加藤 篤
理学療法学専攻 古井 透

地域リハビリテーションの先駆者であり第一人者であった故山本和儀先生の本学への遺志ともいえる「地域リハビリテーション勉強会」が平成22年1月9日に再開された。その後、第4回を5月23日に、第5回を8月22日に開催し回を重ねた。

山本先生と親交の深かった寺山副学長が当学に赴任されたことも再開の契機となった。寺山副学長は勉強会のコメンテーターとしてだけでなく、研究会の総括顧問として会を牽引してくれる力強い存在である。



第3回勉強会はスピーカー3氏を迎え開催した。第4回、第5回も同様に河崎グループからスピーカーをお招きし話題提供してもらい、その後質疑応答やディスカッションを行うといったシンポジウム形式にて行われた。第3回勉強会では、河崎病院地域連携室の守田和美氏が、河崎病院の地域医療におけるその役割や関連グループとの関係、患者さんの入院経路や退院先、他職種連携についてお話しいただいた。貝塚市山手地域包括支援センターの大山奉紀氏には、地域包括支援センターの役割と山手地区の特徴や地域の老人クラブとの関係、高齢者だけではなく生活にさまざまな苦慮されている方々への支援とそのネットワークについて話題提供してもらった。医療法人河崎会「はばたき」の山本忠一氏には障害者自立支援法による就労継続支援B型事業について、障害者に対して懐が深い地域住

民の事例を介して水間地域の特徴を説明していただいた。3氏とも「地域で支える」ことをテーマに、水間での医療・高齢者・障害者それぞれの分野の地域での実践について語っていただいた。



第4回勉強会では、訪問リハビリテーションがテーマであった。まず寺山副学長から訪問リハビリテーションの先駆的な取り組みについてと、その後四半世紀を経て現在と将来の方向性について話題提供いただいた。河崎病院理学療法士中尾友規氏は、河崎病院での訪問リハビリテーションの実践と現在の訪問リハビリテーションの制度について説明していただいた。



本学の稲葉敏樹氏にはまだまだ数の少ない訪問言語訓練についてのこれまでの実践についてご教授いただいた。



また当会の代表である水間病院院長河崎建人先生から現在進行中である障害者福祉制度改革の経緯と意味についてをご説明いただいた。

第5回勉強会は、第4回に続き訪問サービスを取り上げ、訪問看護・訪問介護・精神保健福祉士による訪問をテーマに開催された。河崎病院河崎訪問看護ス

テーションの山本久美子氏には訪問看護ステーションの制度創設の経緯、対象者について、また末期癌の看取りの事例をあげてその実践と訪問看護の在り方についてご説明いただいた。水間病院精神科訪問看護井田明子氏には精神障害者に対する訪問看護についてお話しいただいた。精神科訪問看護では看護師以外にも保健師や作業療法士、精神保健福祉士とともに訪問することが制度的に可能であることや、ご本人が望んだ結果訪問するということは少なく、ご本人に受け入れもらえるような関わりが重要であることも精神科訪問看護の特徴として事例を交えてご説明いただいた。介護老人福祉施設水間ヶ丘在宅支援部の縣和美氏には、うまくいかなかった事例をあげていただき、制度の限界や矛盾について話題提供していただいた。障害者地域生活支援センターみずま精神保健福祉士の正田典子氏には障害者自立支援法の相談支援事業についての制度説明、地域活動支援事業として地域交流、訪問を行っ

た事例についてお話しいただいた。

第3回から第5回まで河崎グループにおける各部門専門職による地域リハビリテーション活動および地域実践の現状報告、制度説明等が行われてきた。次回は、来る12月12日に第2回 泉州地域リハビリテーション研究会として「訪問リハビリテーションステーションの未来と障害者制度改革の方向」をテーマに開催される予定である。講師として全国訪問リハビリテーション研究会会長伊藤隆夫氏を迎え、水間病院院長河崎建人先生より進行中の制度改革の最新の情報を頂く中で、地域の未来についての総合的な議論が期待される。

参考文献

古井透，阿部真二，寺山久美子，富樫誠二，河崎建人：泉州地域リハビリテーション研究会のあゆみ，第14回バイオフィリアリハビリテーション医学会予稿集（豊橋），2010，p54。（ISSN1884-8972）